

白馬だより

泉州労山・大町労山 鈴木 均

今年の紅葉は、けっこう良さそうだ。涸沢は例年より数日遅かったようだが、新聞報道の写真を見る限り、昨年と大違いでナナカマドの赤がきれいだ。9月30日（土）が最盛で、涸沢のテンバは大小1400張り、日帰りを含め3500人という、過去最高の多さだったらしい。最近はピンクのテントもあるようだ。八方ゴンドラから見る紅葉もなかなかのものだ。

一方、初冠雪の情報が入ってこない。北海道や東北の山は、今月上旬には冠雪したようだが、例年ならそろそろというのに立山・後立山はまだだ。今年の雪は遅いのだろうか。全国的だろうが、一昨日あたりから、ようやく日中も寒い日があり、ストーブに火をつける時間が長くなってきた。きょう15日、今シーズン初めて薪ストーブも点火した。昨日は、八方ゴンドラ山頂駅（約1400m）は終日10～12度、16日は8度だった。

体育の日の3連休は、初日が雨だったので、遠出の登山者がどの程度いたのかわからないが、遭難報道もほとんどないことから、おそらく少なかったと思われる。

8日、3人で戸隠連峰の西岳に登った。標準コースタイムは11時間程度で、休憩を含めて12時間と計算し、遅くとも日没までに下山できると予想したが、最高齢の自分だけが完全にばててしまい、実に15時間かかってしまった。岩稜の幅が30センチ程度の蟻の塔渡り・剣の刃渡り（過去2回通過）を越えて、八方睨みで休憩した。すべてのパーティは、ここから東へ向かうが、我々だけが西へ。ここまではコースタイム通りで順調だった。しかし、本院岳の手前あたりからスピードダウン。西岳ピークでは1時間以上の遅れ。加齢による体力の衰えとスタミナ不足を思い知らされた。途中で避難小屋もなく、エスケープルートもないため、前に進むしかない。17時45分ヘッドランプを点灯。朝6時に鏡池近くをスタートし、車にもどったのは、午後9時になってしまった。「なめんじゃないよ。

おまえの登る山ではない！」と、戸隠の神様から強烈なパンチを食らわされた。これからは、年齢相応の登山を思い知らされた。本院岳から伸びるダイレクト尾根の紅葉は圧巻だったが、じっくり眺める心の余裕はなかった。



このルートは、西穂～奥穂に匹敵またはそれ以上と言われ、地図では破線で、いわゆる一般登山道ではない（長野県の「信州山のグレーディング」では除外されている。西穂から奥穂へは2回半登っているが、個人的感想としては、レベルはそれ以上と思う）。歩ける道も笹を刈っただけの所も多く、下りは滑りやすい。しかも、長さ 10m以上でほとんどバーチカルに近い鎖場が上り下りに何カ所もあり（数えていないが鎖は 10 数本か？）、アップダウンが激しい。このアップダウンは地形図では読み取れず、甘かった。

観光でも信仰でも戸隠山は知らない人がないくらい有名で、「蟻の塔（戸）渡り」も多くの人が耳にしているし、登った人もいるだろうが、西岳にはほとんどの山やさんは未踏ではなかろうか。百名山志向の方は、近くの高妻山には登っても戸隠山には登っていない人もあると思うが、ぜひ登ったらいい山だと思う。

蛇足 蟻の塔渡りでは、2名のガイドが、ハーネスを着けた若い女性を各2名ずつ確保していたので、少しだけ待ち時間があつた。

10月16日 記